

第4回仙台市中央卸売市場再整備検討委員会

議事録

1. 日 時：令和6年1月18日（木）9時00分～10時30分
2. 場 所：仙台市中央卸売市場 3階大会議室
3. 出席者：西川委員長、岩沼副委員長、板委員、吉田委員、佐藤(龍)委員、庄司委員、
佐々木委員、佐藤(と)委員、若狭委員
欠席者：本田委員
(事務局) 柳津経済局長、杉田経済局次長、山田管理課長、渡辺業務課長

4. 内容

(1) 開会

司会 : それでは皆様おはようございます。
ただいまから、第4回仙台市中央卸売市場再整備検討委員会を開会します。
中央卸売市場管理課佐藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
なお、出席者の紹介は名簿をもって代えさせていただきます。

(協議会成立の報告)

本日の委員会は、本田委員がご欠席となり10名中9名の委員のご出席をいただいております。委員の過半数が出席しておりますので、当委員会の設置要綱第五条第2項の規定によりまして、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。

では早速でございますが、ここからは西川委員長の方に進行をお願いしたいと存じます。西川委員長、よろしくお願いいたします。

(2) 会議の公開について

西川委員長 : 皆さん、おはようございます。
本日、第4回目ということで、いよいよ基本構想に入っております。今日、ご覧いただきます資料は結構分厚いですが、これについて皆様方から意見をいただく形でよろしくお願いいたします。それでは会議を進めてまいります。まず本日の委員会は公開にて開催します。特に個人情報扱うことはありませんので、公開とさせていただくことでよろしいでしょうか。

委員一同 : (異議なし)

西川委員長 : はい。どうもありがとうございます。

次に議事録の作成についてですが、議事録の署名人の選任をしたいと思いますが、私の方からご指名をさせていただきますけども、板委員いかがでしょうか。

板委員 : (承諾)

西川委員長 : はい。それではよろしく願いいたします。

(3) 議事 ①再整備基本構想(案)

西川委員長 : それでは次第に沿って進行させていただきます。

まず、議事の3(1)になっておりますけども、「仙台市中央卸売市場再整備基本構想案について」事務局から説明をお願いします。

事務局(山田 管理課長の山田です。よろしくお願いします。

管理課長) : 「仙台市中央卸売市場再整備基本構想案」につきまして、ご説明いたします。

(資料仙台市中央卸売市場再整備基本構想(案)の説明)

西川委員長 : ありがとうございます。

事務局から構想案の説明をいただきましたけれども、大項目4まではこれまでの検討で今後の検討課題が大項目5以降となります。それぞれ具体的に項目5.2に書かれておりますが、それをご覧いただきながら皆様よりご意見をいただきたいと思います。

資料は、事前に送付してありますので、大体、皆さん目は通して頂いているかと思いますが、ご意見、ご質問等いただきたいのですが、よろしいでしょうか。

板委員 : 大変、詳しくありがとうございました。

図表36の3種類の方式について、メリット・デメリットをご紹介いただいたのですが、事業期間の短縮や費用の縮減はどの程度なのか、それによるメリットを大きいと考えるのか、それほどでもないとするのか、受け取り方が違うのではないかと思います。詳しい数値を出すのは難しいかもしれませんが、目安などが分かれば検討しやすいです。例えば、広島市場や神戸市場について従来方式で考えらえる期間・費用と、民間活力を導入した場合の結果について参考値が分かれば教えていただきたいです。

また、一つ気になった点として、34 ページ（5）賑わい機能のところ、体験機会などの創出の記述がありますが、調理体験をイメージした場合、調理器具を製造している企業が街中で提供している場所が既にあります。その場所との違いや卸売市場で実施する意義はどのような点があるのでしょうか。案があれば教えていただきたいです。

事務局（山田管理課長）：ありがとうございます。DB方式について、広島市が今年度から実施ということとどのくらいの期間短縮、費用縮減が可能かということについて今後詳しく我々も研究したいと考えております。受託者からも見解があればお願いします。

受託事業者（安井建築設計事務所）：広島市場ですが具体的に公表されている資料の中で、従来方式とDB方式の比較はなされておられませんので、具体的な数値は掴みづらいところではあります。ただ一般的に金額は別として、期間につきましては従来、設計段階で発注・選定・契約期間があり、次に施工段階で、施工者を決めるための発注・選定・契約期間が必要となりますが、一括発注とすることにより、まず選定期間がプロセスとして一つの期間短縮になります。また、建設会社は受託後に資材を発注することになりますが、設計・施工が一連の業務となることにより、先行して資材を発注できるため、結果的に工事期間の短縮につながります。ただし、具体的に何か月かということは、施設の規模や資材メーカー側の納期等にもよるので、具体的には把握しづらいところがあります。

事務局（山田管理課長）：もう一点の賑わい施設の関係ですが、料理教室のような調理室を考えているということは以前にもお話ししましたが、平日は利用率が少なくなるのではないかと意見もいただいております。今後、さらに検討してまいりたいと思いますけれども、市内の料理教室や市民センターの調理室との違いとしては、新鮮な食材をいち早く提供できることが挙げられます。必ずしも市民だけではなく、事業者向けに新しい食材があるからこのような使い方ができるというプレゼンテーションができると思います。場内事業者の皆さんからもぜひ調理室は作ってほしいという意見もございましたので、賑わい施設における一つの検討材料として入れさせていただいております。

西川委員長：ありがとうございます。その他、皆様の方から意見頂ければと思います。

佐々木委員：石巻市魚市場の佐々木です。よろしく申し上げます。

石巻市場については震災後、壊滅状態になり、早急に復旧しなくてはならず、2年以内の工期でやらなければならない状況でした。ここには書かれていないのですが、CM方式（コンストラクションマネジメント方式）を採用

して、設計施工一括発注方式で、期間を短縮して工事ができました。仙台市場は工期に余裕があり問題ありませんが、早く新市場を整備するということであれば CM 方式も参考にしてみてもどうかと思います。石巻の場合は、非常時で行政の手が回らず、民間事業者に一括で委ねたのが CM 方式の最大のメリットであったと感じました。工期もある程度決まり、行政が介入して建設業者とやり取りをする中で、腰を据えて事業に取り掛かるなら、現在の検討内容で問題はないのですが、石巻市場の場合は市場を早く造りさえすれば何とかなるということで CM 方式を採用させていただきました。

西川委員長 : ありがとうございます。その場合、期間短縮になったとのことでしたが、費用面ではどうでしたでしょうか。

佐々木委員 : 192 億円すべて国費で出るという条件でした。

若狭委員 : 29 ページのところに施設配置案及び再整備手順のことが書かれていますが、今後のことについて、施設を変えていく、需要を大事にして建てていく案をお聞きしましたけれど、私たち素人には分かりにくいと思いました。私達は知らなくてもよいのかもしれませんが、現在の建物よりも利用しやすい建物になるのではないかと期待しています。

将来像について話がありましたが、施設の詳細は今後、話し合いによって変わっていく可能性もあるのかなと思っております。最近はお客様に来ていただくために、これまでとは異なる考えを持って取組みをされている方もいらっしゃるかと思います。

事務局（山田 : ご意見という形でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

管理課長） :

西川委員長 : 私の方からよろしいでしょうか。まず一つは 30 ページの施設配置案で、賑わいのところが管理棟の横あたりに配置すると前回出ていましたが、今回は確定ではないということを出されていると思うのですが、どのように考えているのかお聞きしたいと思います。

事務局（山田 : 配置案の中で、賑わい施設を前回の委員会では管理棟の隣に仮に置いてあり
管理課長） : ましたが、ご覧の通り平面駐車場と書いている場所がたくさんございます。賑わい施設や先ほども申しました今後必要となった施設の余剰地として活用できる場所、花き市場も検討の余地がありますので、平面駐車場についてどのくらいの面積があるのか検討を進めたいと思います。必ずしも南側に限らず、東側、北側にも平面駐車場の余剰地もございますので、その中でと考

ております。ただ賑わい施設は、市民の方が直接来られるような飲食店などであれば、当然入りやすい場所にするのが良いですし、学習の機会を得るような見学については、直接、卸売場内にスペースを設けることも考えられます。必ずしも空いている場所でなくても、そういったものを作れるのではないかと考えているところでございます。

西川委員長 : 今後も場所については議論していくということですか。

事務局（山田管理課長） : 先ほど若狭委員からもあった通り、今後も詳細については変わっていくことが考えられます。今回の基本構想はあくまで今の理想として我々が考えるものを市場として掲げるものでありますので、来年度から検討していく中身によっては変わっていくものと思っております。

西川委員長 : もう一点、冷凍庫については、33 ページ（2）で加工、冷蔵冷凍他とあり、整備主体については詳細に検討とのことですが、民間事業者が所有される冷蔵庫と同じような形を検討しているということでしょうか。

事務局（山田管理課長） : ここに書いている冷蔵冷凍設備については、市場関係者か冷蔵冷凍庫を専門としている事業者の誘致が考えられます。

西川委員長 : もう一点、目標取扱数量の推計の 23 ページ、水産物については 6.8 万 t で青果については 12.3 万 t という形で推計から上方に修正した形になっていますけれども、委員会だけではなく部会等で、同意されているのでしょうか。

事務局（山田管理課長） : 我々としては了承していただいているものと思っておりますけれども、取扱数量はグラフ等、資料でも示している通り、下がっているものをどのように歯止めをかけるかが今後の課題となります。施設の老朽化やコールドチェーンが課題解決に向けた大きな要素になりますので、この辺りを改善していれば止められると思います。また、ストックポイントとしての需要が取り込めれば増えていく要素はあると考えております。

西川委員長 : その辺りのストックポイント、中継基地として市場関係者の皆さんはどのように考えているかお聞きしてもよろしいでしょうか。

吉田委員 : 2024 年問題で物流問題が目の前に来ているわけですが、仙台に拠点を構えている物流業者の話を聞くと、ここを中継地点として荷物を預かってもらえないか、中継配送をお願いできないかという仕事は増えていると聞こえてきています。したがって卸売業者、仲卸業者も含めまして、この市場を中継地点、中継市場として使うことは十分に可能であると考えております。

西川委員長 : すると取扱数量が増えてくるということでしょうか。

- 吉田委員 : そうです。取扱数量を増やすことは十分可能と思います。
- 西川委員長 : 可能でしたら青果の方はいかがでしょうか。
- 佐藤(龍)委員 : 全般的にトン数は減っていくと思います。施設規模について、市場敷地周辺の施設面積を含めて 82.1%なのか気になっています。青果はコンテナ事業等も行っています。これらの取組みをやめなくてはいけないのか、外に出さなければいけないのか気になります。水産は F 級冷蔵庫がありますが、青果は青果棟外に冷蔵庫がありますし、倉庫もあります。パレット処理場等、市場敷地周辺の施設の取扱いなどについてお聞かせ願いたいと思います。
- また、構想段階とのことですが、共同の配送施設位置が現在の配置案どおりでよいのかなど、色々な意見も聞こえてきていますので、考え方についてお聞かせいただきたいと思います。
- 事務局(山田管理課長) : 施設面積についてはあくまで卸売場、仲卸売場、買荷保管積込所のみです。で、場内のその他施設は入っていませんし、場外に卸売業者が持っておられる施設についてもカウントはしていません。水産の F 級のように場外から場内に持ってくるものについては面積としては増えることにはなりますが、その整備主体や施設配置案は今後、具体的に話し合いをしながら、来年度以降決めていくことにはなります。
- 西川委員長 : 検討課題とのことですが、検討を進めていくということによろしいでしょうか。
- 事務局(山田管理課長) : はい
- 佐藤(龍)委員 : もう一点、板委員が質問したと重なるかもしれませんが、事業方式について、令和 9 年度からの 10 年間のうち、工事が始まった後、説明いただいた事業手法を採用することで工期が大きく縮まるのか、先ほど受託事業者が説明したとおり、発注期間や契約期間分だけ縮まることになるのか、期間が縮まった分がそのまま施設利用料に反映されるのかなどが気になります。我々、使用料を支払う側としては工期を短く、使用料を安くというのを望みます。我々は運営をしながら業務をしなくてはならないので、その部分をもう少し分かりやすく説明してほしいと思います。
- 事務局(山田管理課長) : 建設の方式もまだ決まっておりませんので DB 方式を仮に取り入れた時にどのくらい短縮するのか、費用がどのくらい縮減するかは今後の話になります。使用料については具体的に検討する中で、場内の皆さんと話し合いをさ

せていただければと思います。

西川委員長 : 切実な問題だと思しますので、宜しくお願いします。

庄司委員 : これから東北の拠点としてストックポイントを運営していくということで、仙台市場がしっかりした中央市場を目指すならば、取扱数量が下がっていく想定ではなく、逆に増やしていくことを目指していければと思います。その一方で、我々も使用料という現実問題があります。民間活力等の事業手法を取り入れることは選択肢としてあると思いますが、そこはしっかり吟味して皆さんにとって良い形ができればと思いました。

西川委員長 : 皆様からご意見を頂いておりますが、その他何でも構いませんので、疑問に思ったことなどございましたらお願いします。

佐藤(と)委員 : 私は農産物を生産・出荷する立場ですが、消費する立場でもあります。生産者、出荷者だけではなく、皆さんを含めた市場関係者、消費者も、出荷したものが新鮮なまま消費者にスムーズに届くのが重要と思います。新鮮なものを的確に皆さんの手元に届けている市場の努力を消費者に分かってもらえるよう、食の体験という賑わいの場を設けることを期待しています。生産したものが無駄にならないように、生産する人も減ってきているので、市場の関係者の努力が反映されるように期待しています。食育もとても大事なことなので、このようにして食べればおいしいなど、情報を流してもらえる場も提供していただけるとありがたいです。

西川委員長 : ありがとうございます。食の安全ということで品質管理の体制もとるとということもありますので今、委員のおっしゃったように新鮮なものが流通することになるのは期待できると思うので、理解いただければと思います。

岩沼委員 : 新しい市場は卸売業者、仲卸業者の使い勝手がよく、仙台市場は東北の拠点市場でありながらハブ市場にもなり得る市場を目指していくということで、これから人口がどんどん減る中で、取扱高を増やしていくことが重要だと思います。そして集荷していただいた物は我々、小売が市民にお届けするというそれぞれの役割を持って新しい市場を考えていければ良いと思います。自分達だけが良ければ良いということがあった時には私の立場としてそれは違うのではないかとお戒めを申し上げるのが副委員長ということなのかと思っております。再整備に際して、仲卸業者が現在の事務所を移転したりするのは随分、経費がかかると思います。経費をいかに少なくして、皆さんが納得して新しい市場を作っていければ良いと思いますので、宜しくお願いします。

西川委員長 : 貴重なご意見ありがとうございます。皆様方からご意見いただきましたが、その他、今ご覧いただいております基本構想についてまだ不明な点があればご発言をお願いします。

板委員 : ここまでの議論を伺っていて、あくまでもここでは消費者にたどり着くということで考えると、上流の部分に関わる方が多いように思われます。19ページの図表20のようにここまでトレンドから横ばいにされていく大きな流れを変えていくとなると、上流だけではなくより消費者に近いところで、消費者が消費してくれないと困るので、このような横ばいにはならないと思います。皆さんの話を聞き、思いを巡らせていたのですが、人口が少なくなり、共働きで時間の限られたライフスタイルを送っている方たちのことを考えると、市場を経由しなくても、加工されたものを直接手にする、オンラインで手にする、工場から直接手に入れることが多くなると考えられます。そうすると、上流のみではなく、加工業や消費者に近い業者の方の意見等も取り入れて、そういった方々に市場で購入してもらおうという流れを目指す必要があると思います。

西川委員長 : その辺りはどうでしょうか。ご意見があればお願いします。

事務局（山田管理課長） : 前日も同様の意見をいただき、市場で現在取り扱っているのは、水産であれば半分以上が冷凍、塩干、加工品で、生のものは少なくなっています。共働きなど、女性の社会進出ということで加工食品、中食、外食産業が増えています。卸売市場のお客様でもあるので、そういったところの意見も聞きながら市場内にも加工できる施設が欲しいという意見も多数いただいておりますので、加工業者を入れるか、卸業者、仲卸業者で加工業務をしてもらうかなどもありますが、今後、意見をぜひ伺いたいと思っています。

西川委員長 : 板委員から意見がありましたが、確かにおっしゃるとおりで水産、青果も含めて、一次生産物があり、その周りに加工場が整備されていくのは理想的な形であると思いますので、周辺の土地で市場関係者も取組みを進めていると思いますが、そういった整備も含めて考えていくことが必要だと思います。仙台市が考えることではないのかもしれませんが、周辺整備もぜひ皆さんと協力して進めていく形であればと思います。その他いかがでしょうか。

若狭委員 : 東北の拠点であるこの卸売市場で、東北各県の青果物、水産物等が入荷しているのかということが気になっています。東北各県のものが入って来ていな

いようなので教えていただければと思います。

西川委員長 : いかがでしょうか。

事務局（山田管理課長） : 中央卸売市場は世界や全国、東北各県からいろいろな生鮮食料品が入っています。

若狭委員 : 秋田県出身で、秋田にもおいしいものがあります。主なものしか入っていない印象を受けますので、私が分かっていないだけかもしれませんが、今後たくさん入荷するのかと期待しています。どうぞよろしくお願いします。

西川委員長 : その他いかがでしょうか。

最後に一点だけ申し上げたいと思います。補助金制度ですが、農林水産省の「強い農業づくり総合支援交付金」を活用されるとのことですが、カーボンニュートラルの点で支援が出てくると思いますので、まずは市で調べて頂いた上で活用すれば当然、整備費用も削減できますし、使用料も減ってくるということになりますので、ぜひお願いしたいと思います。大学などもそうですが、我々も外部資金を取るような形でやっていますので、ぜひやって欲しいと思います。補助金を活用することが市場の活性化につながると思います。今の流れとしてカーボンニュートラルは非常に大事な部分です。2050年に達成という話ではありますが、そんなに簡単な話ではありません。仙台市として掲げている取組みでもあると思いますので、仙台市場でも実現するという意気込みで補助金を獲得していただきたいと思います。

事務局（柳津経済局長） : 最後に私の方から発言させていただきたいと思います。

基本構想について今年度熱い議論をいただき、勉強になりましたし、この会議、何度も行わせていただき、これまでの局長の中で市場に一番足を運んだのではないかと思います。皆さんとも意見交換をできたということで、ひとつ区切りとしてまとめさせていただいたところでございます。

これから手続きを経まして、基本構想という形でまとめていきたいと思えます。初めの一步でしかないというのが実感でございます。私たちもまとめていくなかで、委員の皆さんにはたくさんの論点、視点を提示していただき、良いものになってきたと思えますが、まだ積み残しもあります。今後検討という言葉も何度も使わせていただきました。ただ一つの区切りになったところであります。

次年度からはいよいよ具体的な議論、基本計画となってまいります。一般には総論賛成、各論反対などと言われますが、これは当然だと思います。まず

は理想像を皆で大きく広げていき、その中でも細かいところを見ていく作業のなかでは意見のぶつかりがあるでしょうし、逆にそれがないと怖いと思っていますので、今後はこういった場ではなくても平時でもいろいろ議論や意見交換、消費者の皆様、流通に携わる方の話も聞いていきたいと思っております。

各論の段階で一番求められるのは数字だと思います。面積、費用について、補助金を活用すればこの程度の水準になります、事業方式を検討することによりこれだけ圧縮できます、ただこのような不便は生じますというのは数字をもって議論する必要があると思います。そうしなければ、最後、このような想定ではなかったと必ずなります。ランニングコストも考えていかなければならないと思っていましたし、恐らく来年度からは厳しい判断を求められることになります。新しい市場を整備するわけですから、ストックポイント、2024年問題も解決すべく現代的な要素も入れていくという思いを持っています。

選ばれる市場にならなければ取扱数量は推計どおり減少してしまいますので、これを上に向けていくには何ができるのかを皆さん、我々も含め、立場が違う、バックグラウンドが違うからこそ良いものができる、議論もできると思っているのです、こういった議論を来年是非していきたいと思っています。

もう一つは私の個人的な思いですが、日本の食文化をどのようにみせていくか、そのためにどのような市場ができるか、意見をいただきたいと思えます。我々が今、市場調査や視察に行ったりしていますが、世界から人が見に来て調査したり、楽しめる市場を目指して頑張っていきたいと思っておりますので、引き続き、ご指導よろしく申し上げます。

西川委員長 : ありがとうございます。おっしゃる通りだと思います。委員の皆様もぜひ議論をもっと活発にやっていただければと思います。よろしく申し上げます。皆様から意見をいただきましたけれども、まずは案として出ておりますが、こちらの内容で進めていくということでもよろしいでしょうか。

委員一同 : (異議なし)

西川委員長 : では議事については以上となりますが、次第の方でその他となっておりますが、委員の皆様から何かご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(3) 議事 ②その他

- 西川委員長 : 今日の感想も含めて、皆さんから一言ずついただければと思います。
- 岩沼委員 : ここまでで意見は出たと思いますが、後は使う方が一番重要だろうと思いますので、お任せすればよいかと思います。
- 板委員 : 賑わいのところでも触れましたが、基本構想が公表されるのであれば、市民が見た時にストレートに伝わるような目標や他とは違うところが明確に伝わるように最終案として出していただければよいと思います。各回で検討して意見させて頂いたものが反映されておりよくなっていると思います。ただ、賑わいのところがストレートに伝わっていないと感じました。市民の方が見てもストレートに伝わるようにしてもらえればよいと思いました。基本的にはいろいろ考慮していただき、精査されていたと思いました。
- 吉田委員 : これから細かいところを一つ一つ詰めていかないといけない段階に入ります。仮設の売場を作るにしても、仲卸業者が使っている冷蔵庫をどうするかという問題があると思います。卸売業者であれば、温度を管理する部分をどうするのかなど、細かいところの打合せに入ってくると覚悟を持っております。決して提示されている取扱数量の推計値どおりになることなく、逆に覆していくようにしていくためには、というのを頭に入れておきながら、構想と実務をうまく結び付けていきたいと考えております。
- 佐藤(龍)委員 : 一番大事なのは安定供給をするという責務を果たすことです。生産量が少なくなっても市場に商品が集まってきます。気候変動で夏は37度、冬は凍ってしまう状況です。青果の場合は特に溶けたり凍みたりして大変です。荷物を集めて安定的に保管し、仙台市民や東北地方に安定供給する役目ですので、コールドチェーン化をきちんとしたい市場であれば、必然的に物も集荷できますし、消費者の方々も低温できちんと保管され、供給されるところを見れば安心すると思います。きちんと来年度の計画に取り入れていただければと思いますので、よろしくをお願いします。
- 庄司委員 : ありがとうございます。建て直してよかったと最後に言えるような市場づくりを私個人としてもやっていけたらと感じています。先程のお話にもありましたが、荷を下ろす人、ここで働く人、消費者など皆さんが使いやすい、皆さんがあつてよかったという場所づくりが必要だと思います。誰かだけがよかったではなく、携わる皆がよかったと思える、最終的に選ばれる市場としてしっかりと議論し、良いものを作っていきたいと感じました。今後とも

よろしくをお願いします。

佐々木委員：現代の食が様変わりしている中で、卸売市場の在り方が問われていると思います。卸売市場は必要ないのではないかという話も聞かれますが、我々、産地市場もそうですが、消費地の市場とも連携を取る卸売市場の担っている役割は今後も変わらないと思います。皆さんに信頼される市場づくりを連携しながらやっていきたいと思いますので、今後ともよろしくをお願いします。

佐藤(と)委員：市場は大事な役目を果たしてくれていると思います。この場に参加させていただき、勉強になりました。これから気候変動があり、物を生産するのは大変ではありますが、市場は消費者に物を届けてくれる場所できかに大事が分かりました。生産する立場から申しますと、現在生産者が減ってきている中、法人化した人は通年出荷できると思いますが、個人生産者は大変な状態で、高齢化も進んでいるので気候に合わせた生産体制をとりながら市場に頑張っ出ていきたいと思っています。市場関係の方には市場情報も提供していただいていると思いますが、これからはますますこの機会を通じて一所懸命頑張っただけければ非常に助かりますので、よろしくをお願いします。

若狭委員：卸売市場を知ってはいるが、中身がよく分からない方がまだまだいらっしゃいます。そのためにもアクセスをよくしていただき、皆さんに足を運んでいただくことが望ましいように思います。卸売市場がどのように消費者に食料を提供しているのかということをよく知ってもらえるような市場にしてもらいたいと期待しています。

西川委員長：最後に私の方から、皆さん、意見をいただきありがとうございます。今回は基本構想として、取扱いの目標数量を設定して組み上げる形となっています。ただそうは言いましても、先ほども色々な意見が出ていましたが具体的な経費、期間についてはまだまだ課題が残っていると思います。数値化がまだできていないというところがありますので、どういう形が良いかは実際、基本計画で詰めていくと思いますが、もう少し見えやすい形、分かりやすい形で示せばいいのかと思っておりました。そこについてはこれからの基本計画でしっかりやっていただきたいと思っています。

局長も話をされていましたが、この会の一回目でも話をしましたが、市民やインバウンド客がきて新しい仙台の名所にしたいと個人的には思っています。ここに来ればおいしいものが食べられて、東北地方は良い食文化を持っているところです。これから実際に海外の方々が京都、東京だけではなく、

東北地方に来れば本当に楽しいと思うそんな世界にしていかなければならぬと思います。そうすれば需要も伸び、賑わいもここで作られると思いますので、是非、真剣に考え、取り組んでいただければと思っていますところで、もちろん使用する方々の利便性、使用料の検討も必要ですが、市民全体、仙台市民全体で盛り上げていく方向に持って行ければ、新しい名所として作り上げていけばいいと思っていますので、引き続きご協力よろしく願います。

それでは皆さんから意見をいただきましたので、本日の議事はすべて終了いたしました。事務局から何か連絡事項はございますでしょうか。

(4) 閉会

事務局（山田管理課長）： 今後についてですが、本日、議論いただきました内容をもとに最終的には市の内部で検討し、確定を行う予定でございます。大幅な変更が無い場合には内容について書面にて報告させていただきたいと思っておりますので、今年度、最後になるかと思っておりますが委員会については3月中旬頃、書面での開催を予定しております。開催方法が決まりましたらまたご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また議事録の作成が終わり次第、議事録署名人になります西川委員長と板委員には署名をお願いしますので、よろしくお願いいたします。

西川委員長： 本日の整備検討委員会については終了したいと思います。委員の皆様、進行にご協力いただき、ありがとうございました。
では事務局へお返しします。

司会： 以上をもって第4回検討委員会を終了いたします。本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。

令和6年2月29日

仙台市中央卸売市場再整備検討委員会委員長

西川 正紀

仙台市中央卸売市場再整備検討委員会委員

板 明果

